

新城市地域公共交通会議

H19. 12. 26設置 (H20. 3. 19改組：法定協議会)

NW計画策定(フィーダー系統)

26年度 H25. 6. 13

①協議会が目指す方向性(Plan)

新城市の将来像

市民が^{ひと}つながり ^{みなと}山の^み湊 創造都市

第1次新城市総合計画(山の湊しんしろ 経営戦略プラン)
(策定：平成20年4月 計画期間：20年度～30年度)

公共交通に関する重点施策

公共交通網の整備と利用向上
 主な事業：公共バスの運行、飯田線の活性化
 目標：公共交通機関等の充実の満足度の向上

新城市地域公共交通総合連携計画

～山の湊 創造都市を支える公共交通づくりに向けて～
(策定：平成20年2月 期間：20年度～29年度)

基本方針

民間路線バスの撤退や、合併による市域広域化への対応など、これまでの路線維持にとどまることなく、市民にとって満足度の高い新たな公共交通システムの構築を目指す。

★新公共交通システム推進の6つのポイント

運行形態・路線網の検討
 地域の実情に合わせた運行形態の採用と乗り継ぎの円滑化

バス関連施設の整備
 バス停、乗継拠点、運行案内板など、バス関連施設の計画的整備

ニーズの把握と反映
 乗降調査やアンケートによる利用者ニーズの把握と、運行への反映

地域・利用者の参画
 地域住民・利用者が、計画策定や見直しに参画できる仕組みづくり

利用しやすい料金体系
 市営バス料金の統一と、民間バス路線の料金体系の構築

積極的な情報提供
 鉄道及びバス路線に関するパンフレットの作成など、積極的な情報提供

新城市バス路線図



②地域公共交通に関する具体的取り組み及びそのプロセス(Do)

■連携計画に基づく取り組み

※本年度中の取組部分を朱書きで記載してあります。

○運行形態・路線網の検討

路線名		これまでの取り組み
鉄道	JR飯田線	
地域間幹線	新豊線	H22. 10一部ルート変更
	田口新城線	
	作手線	H20. 4増便 H22. 10増便・ルート変更(実証運行)
新城地区	吉川市川線	H22. 4運行回数変更(冬期) H26. 6登校時間に配慮したダイヤ変更の調査
	中宇利線	H22. 4一部ルート変更 H23. 5一部ルート変更
	北部線	H20. 4一部ルート変更 H22. 4一部ルート変更 H26. 9一部ルート延長、バス停新設(東新町駅:復路)、 下校時間に配慮したダイヤ変更
	西部線 (地域内フィーダー)	H20. 6新設(実証運行) H21. 4ルート変更・減便(フリー乗降区間設定) H22. 4ダイヤ変更 H26. 6バス停新設要望に対する検討(現在継続中)
	本長篠海老線	
	鳳来寺線	H20. 10廃止(塩瀬線で代替)
鳳来地区	布里田峯線	H20. 10路線延長(西保育園～玖老勢) H25. 4 バス停新設(ヤナ場、田峯 (豊鉄バス及びおでかけ北設との乗り継ぎ配慮))
	塩瀬線 (地域内フィーダー)	H20. 10新設(鳳来寺線の代替:実証運行)
	秋葉七滝線	H25. 4バス停新設(守り育てる会からの提案) H26. 5登校時間に配慮したダイヤ変更・増便の検討開始 (26. 10から増便及びダイヤ変更)
	長篠山吉田線	

路線名		これまでの取り組み
作手地区	守義線	H20. 4一部廃止(高里～くらがり・増便)
	大和田線	H20. 4廃止(スクールバスへ移行)
	診療所バス	H20. 4廃止
	つくであしがる線 (地域内フィーダー)	H20. 4新設(実証運行:曜日別運行) H21. 4一部ルート変更(木曜ルート)

○利用しやすい料金体系

・Sバスの運賃を見直し、負担の少ない運賃設定を実施

H20. 4～ 共通回数券(200円、100円)の創設

布里田峯線、秋葉七滝線、長篠山吉田線の運賃変更(210円→200円)

H22.4～ 中宇利線、吉川市川線の運賃変更(対キロ→200円)

H22.10～作手線の運賃変更(対キロ→ゾーン制(200円↔400円))

Sバスと新豊線の運賃の調整(新城富永～市民病院160円、新城富永～千郷小学校190円)

回数券の設定(160円と190円)

H25.4～ 布里田峯線・塩瀬線における乗継券の創設

H25.12 田口新城線の運賃見直しに関する調整会議(設楽町・豊鉄バス(株)・新城市)

○バス関連施設の整備

・作手地区 高里バス停の整備

乗継拠点として、高里バス待合所を建設(平成14年9月)

・鳳来地区 本長篠駅前バスターミナル

設楽町・新城市の観光マップをバス待合所に掲示(平成24年度)

②地域公共交通に関する具体的取り組み及びそのプロセス(Do)

○地域・利用者の参画

「路線を守り育てる会」の設置

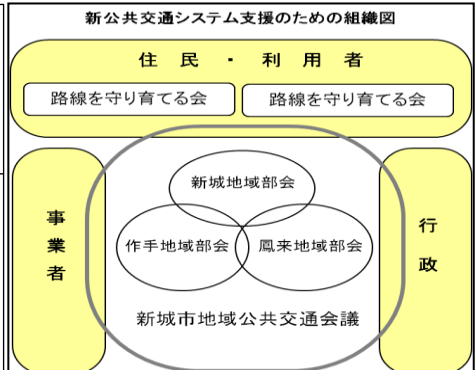
- ・布里田峯線 H20. 4.21設置
- ・つくであしがる線 H20. 9.17設置
- ・西部線 H20. 9.25設置
- ・秋葉七滝線 H24.12.13設置

主な取り組み

- ・地域内のバスルートやダイヤの検討
- ・利用状況の確認
- ・使用促進策の検討
- ・イベント等の実施
- ・アンケートの実施 など

地域部会の設置

- ・新城地域部会 H21.7.9設置
- ・作手地域部会 H21.8.7設置



主な取り組み

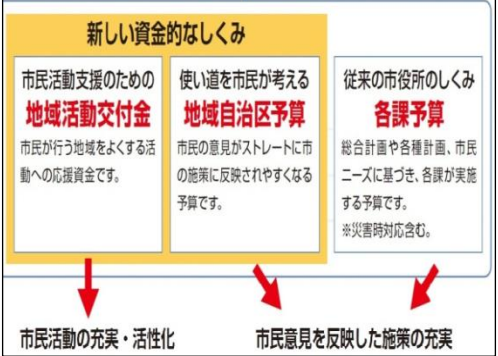
- ・守り育てる会への情報提供
- ・ルートやダイヤの検討に係る調整
- ・意見・要望の集約、利用促進に係る意見交換

地域自治区制度との連携

平成25年度からスタートした「地域自治区制度」で設置された「自治振興事務所(市内を10の自治区に分け担当職員を配置、地域のサポート役となる組織)」に寄せられる「地域住民や利用者」の声を、同事務所担当職員と連携を図りながら今後の公共交通に生かす体制作りを開始。

一方、地域ごとに異なる課題・相談内容を、地域自身でも考えてもらうように働きかけ、また、地域自身が積極的に考え活動できるように「地域活動交付金」などの資金面でのサポート制度を周知し、地域の実情に応じた行動が図れるようにした。

※秋葉七滝線のダイヤ変更・増便については、地域住民で組織された団体が、地域活動交付金を活用して検討を重ね報告書としてまとめた。今回の変更に関がっている。



○ニーズの把握と反映

- ・利用者満足度調査の実施 (毎年度実施)
- ・H24.3 生活交通ネットワーク計画策定調査の実施 (新城市及び北設楽郡で連携して実施)

○積極的な情報提供

- ・ラッピングバスの運行
 - 守義線、つくであしがる線、北部線、西部線、もみじまつりPR(新豊線)で実施
- ・バスマップ、パンフレットの作成
 - H23 市内全域のバスマップを作成し全戸配布
 - 新城地区のバスパンフレットの作成及び配布
 - H26 市内全域のバスマップ(時刻表と路線図)などを掲載したバスマップを全面改訂するための準備開始(27年3月完成予定)
- ・利用促進イベント等の状況
 - H22 新城市・北設楽広域連携イベント「飲んだら乗るな、乗るならバスだ」の開催
 - H24～夏休み小学生50円バスの実施(東三河8町村で共同実施)
 - 全小学生へのPRチラシ配布に加え、商工会や老人クラブへ出向きPR協力を依頼し、商工会主催のイベントでもPRを実施。結果期間中の50円バス利用者の増加(H25:41人→H26:264人)に繋げることができた。
 - H26 ケーブルテレビの市政情報番組内で、バスに乗車して観光地などを巡る特集番組を制作し放映。(6月:田口新城線、8月:秋葉七滝線)

■この1年間の取り組み(再掲)

- 吉川市川線のダイヤ変更の検討(登校時間に配慮したダイヤの検討)
- 北部線の一部ルート延長、下校時間に配慮したダイヤの変更、バス停の新設(東新町駅:復路)
- 西部線のバス停新設要望に対する検討開始
- 秋葉七滝線のダイヤ変更・増便の検討(登校時間に配慮したダイヤ等の変更)
 - ※H26.5月・7月開催の守り育てる会で協議(26.10から増便及びダイヤ変更実施)
- 夏休みこども50円バスの実施(東三河地区自治体と共同実施)
- ケーブルテレビの市政情報番組でバスに関する特集番組を制作・放映
- 布里田峯線(H25.10)及び秋葉七滝線(H26.12予定)の車両更新

③地域公共交通に関する具体的取り組みに対する評価(Check)

■目標値とその達成状況

※地域内フィーダー路線は太枠で囲んだ部分です

※満足度数は1.0を基準(普通)とし、0.8~1.2の範囲内で数値が高いほど満足度が高いことを示しています。

路線名		目標値と達成状況																	
		利用実績(人)									収支率(%)				利用者の満足度数			自己評価	
		目標値 (NW計画)	本年度	達成度	本年度			前年度			増減 (除子供)	目標値 (NW計画)	本年度	達成度	増減	目標値 (NW計画)	本年度		増減
総数	子供				除子供	総数	子供	除子供											
地域間幹線	新豊線	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	田口新城線	—	60,349	—	60,349	—	60,349	60,609	—	60,609	▲260	—	—	—	—	0.98	1.03	0.05	—
	作手線	43,305	39,745	92%	39,745	—	39,745	40,423	—	40,423	▲678	27.49%	25.23%	92%	▲2.26	1.00	1.00	0	B
新城地区	中宇利線	55,182	51,476	93%	51,476	34,920 (97人)	16,556	49,554	34,560 (96人)	14,994	1,922 (1,562)	30.85%	31.76%	103%	0.91	1.13	1.07	▲0.06	B
	吉川市川線	11,112	10,237	92%	10,237	7,200 (20人)	3,037	10,108	6,840 (19人)	3,268	129 (▲231)	11.33%	11.30%	99%	▲0.03	1.17	1.05	▲0.12	B
	北部線	10,685	9,512	89%	9,512	4,592 (13人)	4,920	9,280	3,591 (12人)	5,689	232 (▲769)	15.18%	15.48%	102%	0.30	1.07	1.13	0.06	B
	西部線 (地域内フィーダー路線)	4,534	3,844	85%	3,844	—	3,844	4,161	—	4,161	▲317	12.86%	8.11%	63%	▲4.75	1.16	1.11	▲0.05	B
鳳来地区	本長篠海老線	—	5,028	—	5,028	—	5,028	6,565	—	6,565	▲1,537	—	—	—	—	0.98	1.05	0.07	B
	布里田峯線	5,331	3,830	72%	3,830	3,620 (12人)	210	4,468	4,215 (13人)	253	▲638 (▲43)	9.66%	8.81%	91%	▲0.85	1.13	1.03	▲0.10	B
	塩瀬線 (地域内フィーダー路線)	5,351	5,722	107%	5,722	4,177 (14人)	1,545	5,287	3,455 (12人)	1,832	435 (▲287)	9.23%	9.87%	106%	▲0.64	1.02	1.04	0.02	A
	秋葉七滝線	14,933	10,944	73%	10,944	8,299 (19人)	2,645	13,161	9,652 (25人)	3,509	▲2,217 (▲864)	18.48%	15.33%	83%	▲3.15	1.13	1.05	▲0.08	B
	長篠山吉田線	20,306	16,159	80%	16,159	13,050 (37人)	3,109	16,767	14,952 (42人)	1,815	▲608 (1,294)	35.24%	31.21%	86%	▲4.03	1.06	1.08	0.02	B
作手地区	守義線	4,995	3,457	69%	3,457	1,836 (9人)	1,621	4,190	1,470 (9人)	2,720	▲733 (▲1,099)	10.32%	5.72%	56%	▲4.60	1.18	1.15	▲0.03	B
	つくであしがる線 (地域内フィーダー路線)	1,908	1,181	62%	1,181	—	1,181	1,620	—	1,620	▲439	5.34%	3.03%	57%	▲2.31	1.20	1.20	0	B

※利用実績(人)の達成度は、子供利用分も含んだ総数で算出

※自己評価の評価基準 (A・利用実績及び収支率の達成度が100%以上で満足度数が1.0以上の場合(ただし満足度数が1.0より小さい場合はB)
 (B・利用実績又は収支率の達成度のいずれかが100%を超えた場合(満足度数が1.0より小さい場合でもB)
 (B・利用実績及び収支率の達成度が100%を下回ったが、満足度数が1.0以上の場合)
 (C・利用実績及び収支率のいずれも100%を下回り、満足度数も1.0より小さい場合)

■全体評価

・個別評価の総括

高齢者や小中学生の通学を目的として利用され、概ねその役割は果たしている。しかし運行ダイヤや運行回数等への不満が見られたため引き続き改善を図り満足度の向上に努めたい。

・それぞれのシステムのネットワークとしての役割

それぞれのバス路線は、幹線系統やJR飯田線の各駅につながるようにネットワークを形成している。

・連携計画に基づいたこの1年間の取り組みによる成果等

秋葉七滝線を守り育てる会での協議を経て小学生の登校時間に配慮したダイヤ変更を実施し、日々利用する児童の利便性向上が図れた。同様に北部線でも一部ルートを延長し下校時間に配慮したダイヤに変更することができた。

④自己評価から得られた課題とその対応(Action)

■利用者実績・利用者の満足度数から得られた課題

小中学生の利用が大部分を占める路線では、児童・生徒数の減少に伴い利用者数も減少しており、一般利用者の状況だけをみても全体的にゆるやかな減少となっている。人口減少が続く本市では大幅な利用者増を見込むことは難しいと考えるが、バス利用者に対する満足度を向上させることで、利用者減少に歯止めをかける必要がある。利用者満足度調査では、多くの路線で基準となる「1.0」よりも高い数値(評価)を得たが、小中学生が日々通学に利用する布里田峯線や本長篠海老線、長篠山吉田線などでは、運行回数や運行ダイヤに対する「やや不満」「不満」という声が多く見受けられた。

●対応→利用者満足度数から得られた結果を踏まえ、「守り育てる会」や自治振興事務所等とも連携を図りながら、ダイヤの見直しや乗継の容易化などに対する改善を行う。

■広域連携(田口新城線)に向けた課題

平成23年度に設楽町と共同で実施した調査結果を踏まえ事業者も含めた検討の場を設け協議を行ったが、具体的な方向性決定までには至っていない。

●対応→引き続き設楽町や運行事業者及び沿線住民との対話を進めていくが、平成28年4月に沿線の4小学校が統廃合されることから、この時期に合わせて田口新城線及び沿線2路線(布里田峯線・塩瀬線)の見直しを図るとともに、この内容を踏まえた地域公共交通網形成計画の策定に着手する。

■地域・利用者の参画に関する課題

路線ごとの課題などを協議・検討する「守り育てる会」を4路線で設置し、旧市町村単位でバス運行のあり方を検討する「地域部会」を設置しているが、各組織を生かし切れていない(稼働できていない会・部会が多い)。

●対応→課題解決に有効となる「守り育てる会」「地域部会」が機能するように、積極的な働きかけを行う。また本市の新たな取組みである「地域自治区制度」を活用し自治振興事務所と更に連携を深め、「守り育てる会」と共に地域ごと異なる課題解決に向けた取り組みを進める。

⑤アピールポイント(特に工夫した点)

■地域公共交通を守るための利用者、住民の参画

今回「秋葉七滝線を守り育てる会」で協議を行いダイヤ変更・増便を実施できた背景には、地域自治区制度の「地域活動交付金」を活用した地元住民で組織された団体の存在がある。この団体は利用者目線で路線が抱えている課題を深く掘り下げ、調査検討を行い報告書としてまとめるなど、住民自身が積極的にバス利用に参画し、自分達のバスを自分達で考える一例となった。

単に「あったらいいな」の要望形式ではなく、今後も継続して利用していく前提での改善要望に対するバス路線の改善は、利用者増加にも効果を発揮するものと考えている。広大な市域を抱える本市においては地域ごと抱える課題も異なり、遠方の小中学校まで通学する必要があったり、交通手段を持たない高齢者の通院・買い物の足の確保などとして地域公共交通は必要不可欠なものである。

今回の手法を基として他地域でも実践していけるように、自治振興事務所や守り育てる会と連携を図りながら今後も進めていきたい。